

アベイラビリティを観点とした鉄道信号設備の評価法

岩田浩司 平栗滋人 渡辺郁夫

鉄道信号装置は、装置の障害が重大事故に直結する可能性が大きいことから信頼性とともにも高い安全性が要求される。近年、RAMS国際規格が制定され、R(信頼性)、A(アベイラビリティ)、M(保守性)、S(安全性)を観点に、安全性に加えてアベイラビリティ面

表 アベイラビリティを観点とした
鉄道信号装置の評価手順

【Step 1】 現状把握	【Step 2】 目標値設定	【Step 3】 目標アベイラビリティを達成するための適用対策の検討
<ul style="list-style-type: none"> 現状のアベイラビリティ (発生頻度、停止時間) 現状の列車ダイヤへの影響 (運休、遅延本数) 現状のコスト 	<ul style="list-style-type: none"> 目標アベイラビリティ 目標とする運休、遅延本数 目標コスト 	<ul style="list-style-type: none"> 改善対象機器の選定と効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 復旧時間の短縮 ・ 信頼度向上 (頻度低減) ・ 保守性向上 (頻度低減) (検出精度の向上として) システム全体としての効果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 改善後の発生頻度 ・ 改善後の停止時間

からの解析・評価も求められつつある。

そこで、効率的に鉄道信号装置へ対策を適用するため、システムのアベイラビリティを観点とした評価法を提案した(表)。本手法の特徴は、目標アベイラビリティを達成するために適用する対策を、信頼性に関わる障害の発生頻度の低減効果と、保守性に関わる装置停止時間(最大遅延時間)の短縮効果の両面

から評価する点である。

目標アベイラビリティを、影響人数の低減度にもとづき設定したケーススタディの結果、本手法の適用により、システム全体の目標アベイラビリティを効率良く達成するための対策の選定が可能であることを示した(図)。

(鉄道総研報告, 2009年1月号)

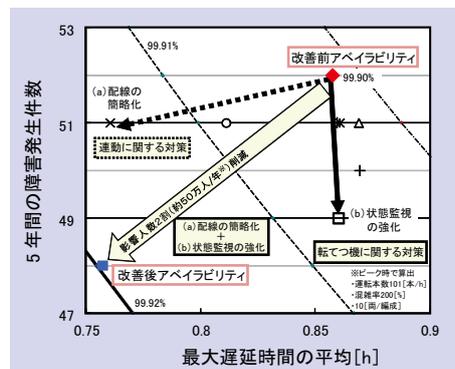


図 複数装置間での適用対策の検討
(連動装置と転てつ機に関する対策の組み合わせ)